

令和6年度 第1回亀岡市こどもの貧困の解消に向けた対策会議 会議録（要旨）

□ 日 時 令和6年12月23日（月） 13時15分～15時30分

□ 場 所 亀岡市庁舎 3階 302・303会議室

□ 出欠状況

出席委員 埋橋 委員、金田 委員、奥村 委員、松本 委員、杜 委員、平井 委員、
國府 委員、石田 委員、原田 委員

欠席委員 なし

事務局 こども未来部 9名（部長、子育て支援課、こども家庭課、保育課）
健康福祉部 2名（部長、地域福祉課）
教育部 2名（学校教育課、社会教育課）
オブザーバー 3名（佐々木副市長、（株）サーベイリサーチセンター大阪事務所）

□ 傍聴者 なし

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 開会挨拶
4. 議題

（1）会長・副会長の選出について

【事務局】会長については、会議設置要綱5条第2項に基づき、委員の互選にて選出、また、副会長については、同条4項に基づき、会長が指名するものとなっている。まず、会長の互選について、どのような方法が良いかお諮りしたい。

【委員】事務局案で何かあるか。

【事務局】ただいま事務局案とのご意見があったが、他にあるか。無いようであれば、事務局としては、第1期計画策定時の会議の経過を踏まえる中で、会長に同志社大学の埋橋委員を推薦したい。ご承認いただける方は拍手をもって願います。

【委員一同】拍手をもって承認

【事務局】多数の拍手により、事務局案をご承認いただいた。
続いて、埋橋会長より副会長をご指名願いたい。

【会長】前回も副会長を務めていただいた金田委員を指名する。

【事務局】就任にあたり、代表して埋橋会長よりご挨拶を頂戴したい。

【会長】前回の会議にも参加させていただいた。市役所の各部局、教育委員会、地域福祉課等からも参加いただき、活動の指針を作るにあたって各部署の意見を聞きながら作り上げられたことが大変印象に残っている。今回も全部署対応

でお願いしたいと思う。

私自身は、2012年と2017年に大阪市教育委員会の事務局、京都市教育委員会の事務局の協力を得て、かなり早めに子どもの貧困に関する調査を行った。例えば、小学校5年生と中学校2年生に子どもの調査票と保護者調査票をわけて、学校を通して配布・回収し、調査の原型を作りだした。今回も亀岡市でも調査を実施するとのことだが、私達は文部科学省の科研費の一環で行ったが、今回は市独自で実施される。学術的な研究の素材を提供するというより、今後市役所で色々な対応をしていくためのデータを得ることが大きな役割になる。亀岡市の子供達とのQOLや将来にプラスになる施策を生み出していけたらと考えている。皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

(2) 亀岡市こどもの貧困の解消に向けた対策会議について

・事務局より、資料1、資料2について説明

(3) 亀岡市子どもの貧困対策推進プラン進捗状況について

・事務局各担当より、資料3について説明

<質疑応答>

□ 要 旨

【委員】教育の支援を見ても、子ども達の生活の安定応援を見ても、貧困対策というより全体的な対策として、市がしっかり向き合う必要がある部分だと思う。それらの内容により、今回の重要なテーマである貧困の解消に向けた施策をどう結びつけるかになる。これが土台になるとすれば、スタートのスタートだと思っている。もう少し真剣に貧困を解消するための踏み込んだプランが必要である。これが基本というより、これにいくつか上乗せしたスタートラインをいただかないと「1 子どもたちの学びを応援」、「2 子ども達の生活の安定を応援」とある中で、ようやく基本目標3・4くらいで、どうにか新しい方向や現場のことが見えてきだしているという感想を持った。事務局には、色々な形で提案してもらえるとありがたい。

【委員】子ども達の育ちの中で最低限必要なことが当たり前に書かれている。その子その子にとって何が当たり前なのか。貧困対象の家族にとっては足りないと感じるかもしれない。当たり前感を根底において、それが幸せやウェルビーイングにつながるような策が、具体的に使えるものであってほしい。貧困状況は見えにくいことが根底にあるのではないか。実際に子どもと接している立場の皆さんには、現状がどのように映っているのかお聞きしたい。

【委員】この資料のプランにも、子どもの貧困に関する指標の最低基準が載っている。これは法律なので、見え方の問題ではなく、貧困とは何かという定義がある。そこを足すのか、足さないのかの話である。先ほど指摘したのは、このプランを見て、スタートアップとして低すぎるということである。次回のプラン策定の際に、後半については現行計画以上の内容をプラスしながら、前半指摘したものについてはスタートラインを更に上げるために、事務局の準備を

お願いしたい。

また、和暦と西暦を併記してもらわないと分かりにくいので次期計画の際には対応をお願いしたい。

【委員】私からいくつか質問したい。推進プランの5、6ページに子どもの貧困に関する指標がある。達成状況の項目について色々な部署から報告があったが、痒いところを服の上からかいているような感じがした。指標比較表も提示されているが、それが今後の目標や取組に入っている項目が少ないように思う。これは子どもの貧困に関する指標なので、直球を投げている。それに対して推進プランの進捗状況が、きちんと対応していないところがあるように感じた。指標比較表ではかなり具体的に項目が挙げられているが、それは目標値に入っていないのか、入れることが難しいのか。

【委員】「地域未来塾の実施時間」275時間が530時間になった時に、例えばひとり親家庭の子どもの進学率や進学の質をどう評価するかに結びつくのかどうかがよくわからない。地域未来塾の実施がどれだけの貧困世帯の子どもに届くのか、塾等の文化資本につながらない子ども達がどれくらいつながるのかかわからない。他のところも同じことを感じている。例えば、養育支援訪問事業やファミリーサポートセンター事業も、この件数が増えればそれだけ困難な状況にある子どもを補足できているのか、どのように測定されているかわからない。私はスクールソーシャルワーカーを大阪府茨木市で6年ほどしている。例えば資料2 5ページの11、12に「スクールソーシャルワーカーによる対応実績」とあるが、ケース対応を何件したと報告を挙げたところで、どれくらい困難な子どもの状況が良くなったのか等の評価とは一致しないところに疑問を感じていた。そのあたりをどのように検討していくのか、教えてほしい。

【委員】プログラム評価の場合、インプットがあり、次に活動があり、アウトプットがある。ここまでは、我々の努力でできることである。どれだけ予算を使うか、建物を使うか、人員を使うかは、自治体の努力でできる。取組の結果、こういった影響や成果が得られるか、ということがアウトカムであるが、ここに挙げられているほとんどが活動までである。成果指標として捉えられる内容として、基本目標1「②学力の向上」、基本目標2「③虫歯の無い3歳半の幼児の割合」と「⑤保育所入所待ちの解消」、基本目標3「③公正証書等により養育費の取決めをしている割合」はアウトカム指標だと思う。これらを区別して、今後指標を考えてもらいたい。そういうことで言うと、資料2に挙げられている子どもの貧困に関する指標比較表は、全て成果になる。例えば、高校進学率、滞納経験のあるひとり親世帯は、成果に関する重要な指標である。こういうものを市レベルでどこまで政策として対応できるかは、手段が限られており難しいが、ここから得られる指標を目標に設定して、庁内で努力していくことも一つの方法だと思う。

進捗については「概ね順調」がほとんどであったが、遅れている項目はある

か。

【委員】それぞれの部署が、現場でもっと自主的かつ具体的に取り組んでいると思うが、ここには挙がってきていないと思う。それをより肉付けしたものをスタートラインにすれば、現場も動きやすいし、プランとしても中身のあるものになるのではないかと。私はいつも現場で連携しているので、もったいないと思う。ここまでしか書かれていないのは気の毒になる。そういう意味で、次に計画策定する際は、現実に実施している部分からスタートしてはどうかという提案をした。

【委員】前はかなり前のことになるので記憶が不確かなところもあるが、庁内の色々な部署が協力しているが、一般的な項目でありあまり貧困に関係しないような項目も挙がっていたように思う。それがこういう結果になっているのかもしれない。もう少し子どもの貧困やQOLに焦点を絞った取組を吸い上げた方が良いかもしれない。そうすると、もっと変わった取組も可能になるのではないかと。

【委員】「基本目標1 子どもたちの学びを応援」について、例えば、「①亀岡市地域未来塾の実施時間（中学3年生）」は令和7年度530時間を目標とあるが、何をもってこのようにしたのか。令和5年度の247時間をもって、何故「概ね順調」の評価となっているのか。本校は、今年度10月から60時間をつけていただいた。中学校は7校あり、その全てが60時間ついていた場合の時間数だが、それは予算の関係があって厳しいと聞いている。時間をもって順調と考えるのは、いかがなものか。先ほどご意見があったように、例えば進学率や、そのことによってどれだけ学びが伸びたかを測る方が、よほど貧困対策の指標になるのではないかと。また、「②学力の向上」については、確かに府の学力診断テストは、正答率をみるものから伸びをみるものになった。ならば、このことによって非認知能力をみていくこともできるのではないかと。自己肯定感がどれだけ変わったか、その子達がどんなふうに感じているのか、といった分野にもっていくことも可能ではないかと。次回プランの参考にしてほしい。

【事務局】地域未来塾の530時間については、コロナ前の実施時間の実績を基にしながら目標としている。コロナ禍で事業実施時間が短くなったことや、令和5年度から別院中学校が南桑中学校へ統合されたことが影響し、令和5年度は247時間と下がっている。なお別院中学校では令和4年度実績として、72時間実施していたこともあり、閉校の影響は大きいものと考えている。また、本事業では授業終了後に各学校から成果と課題を含めた報告書を提出いただいており、その中で成果があったとの回答がほとんどだったことや、受講者の高等学校進学率が100%と聞いていることも踏まえ、授業としてはとても良いものだということで、時間の伸び悩みはあるものの概ね順調とした。

【委員】亀岡市は基本目標ごとに数値目標を全てに設定しているのは、ユニークだと思う。あまりここまで全ての項目に数値目標を設定しているものはないよう

に思う。それは積極的に捉えた方が良いように思うが、いかがか。

【委員】統計的には必要と思うが、同時に中身が大事だと思う。数字は大事だが、例えば、100%進学したものの5月に高校を中退するケースも多い。その後のことも追跡してみたいという仕組みにできれば良い。現場で残念に思うのは、アンケート結果にもあるように学校に行けないという子どもがいるだけでなく、要保護児童対策地域協議会に関わるような複合的な問題を抱えている子どもが多い。貧困とネグレクトや虐待の複合的な問題は切り離せない。そういった点について、クロス的なものを今後皆で作っていただければ良いと考えている。

【委員】「3 保護者の生活を応援」の「①家計改善支援事業の改善率」は、家計が改善した割合なのか、事業が拡大して改善したのか。

【事務局】家計改善事業に参加していただいた方にアンケートを取っている。その意見と、この家計改善事業を行うにあたり、生活困窮者自立支援事業の支援会議にかけており、そこでの意見も踏まえて、効果について評価している。

【委員】事業の拡大ではなく、家計改善事業における家計改善率ということで了解した。

同じく「④ひとり親家庭への総合的な支援のための相談体制の充実」の「整備」と「構築」の区別はどうか。

【事務局】「ひとり親家庭への総合的な支援のための相談体制の充実」と言葉で書くと簡単だが、色々な個別要件があって、一定マニュアルどおりにはならない状況である。この間に日々の窓口・相談対応の中で経験を積み上げていった結果、最終的にしっかり体制づくりができればという思いの下、構築がされるようなイメージで「整備」から「構築」と表現されたものである。

【委員】何があれば充実し構築できたとするのかがあれば良いと思う。次期はそのあたりを整理する必要があるかもしれない。

【委員】ひとり親家庭の相談内容は、多岐にわたるという条件がある。内容を6つくらいの項目に分けると、何が今一番必要か見えてくると思う。そういう見える化の作業をすれば、次のステージにいけるのではないか。

【委員】家計の改善率について、良くなったと思うという回答は本当に成果なのか。実際に良くなったことは、どう計るのか。あるいは、良くなったその後の維持ができているかどうかは、どう計っているのか。「相談して良かった」は、改善したことにはならないのではないか。主観的なことは大事で、それは現場で丁寧に聞き取りをしているからこそ分かることだとは思いますが、主観ではなく何か目標的な生活水準みたいなものが想定されていて、そこまで達成したかどうかの率をとることが必要ではないかと感じた。

【委員】改善率といった場合に言葉が大きすぎる。中身が問われると思う。

【委員】現状を正直に書いてもらうという意味では、スタートとしては良いと思う。

【委員】先ほどの「ひとり親家庭への総合的な支援のための相談体制」は、多岐にわたるため、どの要素や内容に焦点をあてれば良いか分からない部分もあると

思うが、それを整理することは大事である。そのあたりは集計しているのか。

【事務局】相談内容は集計されている。

【委員】それを元に引き続き充実に向けて努力してほしい。

難しいかもしれないが、最初に指摘した子どもの貧困に関する指標についての取組を付け加えるようなことも考えてもらえればと思う。直球勝負で対応していくほうが良い。

(4) 子どもの生活状況調査について

・事務局各担当より、資料4-1、資料4-2について説明

(質疑応答)

□ 要 旨

【委員】子ども向け調査の問1「あなたの性別を教えてください」に、「3 答えたくない」とある。小学校5年生くらいだと、色々な悩みを持っている。ここでは自分で性別を書けるような誘導があっても良いのではないか。男女共同参画審議会でもアンケートを実施する際には、性別をどう問うかで長時間議論を重ねた。ここは一考願いたい。

次に9ページ、問20「あなたは将来の夢がありますか」について。最近は、夢というより目標という言葉が学校関係や色々なところで使っている。目標という身近なことを実現することから夢につながるようなプロセスを置いているのが社会的な意識になってきている。ここは「目標や夢がありますか」としてはどうか。

問21は削除するとのことだったため具体的な対応は不要と思うが、この中に「建設業」や「物づくりの職人」という選択肢がないのは、いかがなものかと思った。また何かの時に考えてもらいたい。

追加設問(案)①に「頑張れば、むくわれる」「自分は価値のある人間だと思う」とあるが、「価値のある人間」の概念が小学校5年生でどんなイメージがあるか疑問がある。

追加設問(案)②に「学校には自分の居場所がある」とあり、保護者向けの追加案にも同様にある。ここは、「相談できる先生がいる」とした方が良いのではないか。突然「学校」という場所の概念が出てくるので、もっと自然に相談相手がいるかどうかにした方が良く思う。

【委員】2ページ問4「あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか」とあるが、周りと比べるのは難しいのではないか。

3ページ問7-1「地域のスポーツクラブや文化クラブ」に参加していない理由は、その他欄で補えるかもしれないが、貧困の子ども達の大きな課題の一つに情報が行き届かないことがある。どんなクラブが地域にあるか、その情報さえ入ってこないところに問題がある。自分自身もぜひ聞きたいことなので、その項目があっても良いと思う。

また、先ほども意見が出ていたが、自分が価値のある人間かどうかを問うの

は難しいと思う。併せて、学校の居場所についても、こちらが意図した居場所と捉えてもらえるかどうか心配がある。

また、私達が貧困を心配する子ども達で一番初めに見るのは、服装である。季節に応じていない服装をしていることが一番気になる。具体的すぎるので参考にしてもらえればと思うが、例えば今は毎日お茶を学校に持ってきているが、水を入れている子達もいるし、学校のウォーターサーバーから入れる子もいる。それ以外にも文房具等、生活に密着した持ち物にも視点をあてると、気を付けてみているところが反映されて良いのではないかな。

【委員】過去に都道府県の教育委員会の協力を得て実施した調査内容が踏襲されているのは、ある意味で嬉しいところもあるが、現状に対してやや古くなっている。もっと新しいところに挑戦しなければならないのではないかなと思う。当時はアカデミックな観点から調査が設計されたところがある。その2つの調査では、経済的貧困層、準貧困層等を区別して、どういう違いがあるのか調べたいという目的があった。特に、自己肯定感がどう違うか等に関心があったが、それは既に、学術的には決着がついており、経済的に貧困のある子どもは、自己肯定感が低いことが分かっている。それを改めて確認して、どうなるのかという気がする。ちゃぶ台返しのようになってしまうと申し訳ないが、それがどう変化していくかは大事だが、親の健康に関する非正規労働の問題など、そこで行政にできることは何か、そういう項目があっても良い。これまでの貧困の分類に応じた非貧困層と貧困層ではこれだけ違うということ、今言う必要はないのではないかな。それよりも、亀岡市として何か施策を展開するにあたって参考になる情報を今回は入れてほしい。具体的には、子どもの貧困のところで将来の夢等を聞く時に、悩みや不安があれば連絡してほしいという情報を入れることは、数が少なくても大事だと思う。市として相談はウエルカムだという姿勢を示すことが大事だと思う。同じことが保護者調査でも言える。例えば、生活相談の欄を付けることが大事ではないかな。また、近年ではヤングケアラー問題が浮上している。それを子どもに対して聞くこともできるし、親に対してもできる。そういう項目があっても良いと思う。そこにヤングケアラーの相談先のQRコードを付ける、あるいは、外国にルーツのある子ども達の問題の相談先を付けるなどしてはどうか。過去の原型が踏襲されているのは嬉しいが、今直面している課題から考えたアンケート項目がもう少しあっても良いのではないかな。格差があって意識が違うことは当たり前の話で立証されている。手作りの調査票を作っていくことが大事だと思う。

【委員】自己肯定感の低さと経済的な状況との関連は既に実証されている。むしろこの項目を聞いて市政にどう活かしていくか、という項目に焦点をあてることは大事だと思う。保護者調査にも相談窓口の情報がついていたほうが良いと思ったのは、例えば宅食についてもそうだが、この調査に回答したことで何かメリットがあるとしたら、これに回答することで情報にアクセスできると

いう観点から追加してはどうかと提案しようと思っていた。

また、「学校に相談できる人がいる」というのは、良いと思う。居場所というとすごく曖昧なラインだと思う。地域のお祭りに参加することが楽しいと思えていないのであれば、どの子も参加できる地域のお祭りにしていこうなど、まちづくりや政策につなげていける項目を重視して精査していくと良いのではないか。

【委員】社会的にシングルマザーや父子家庭は多いが、支援が必要な人には、母子寡婦福祉会も含めてなかなか会に入ってもらえない現状もある。子育て関係者とタッグを組んだ取組など、色々なことをしている。一人ひとり違った悩みを抱えておられる中で、希望に向かって良い方向へ進めたいと思っている。

(5) その他

- ・事務局より、今後のスケジュールについて説明
- ・調査票の内容に関しては会議で頂戴した意見を踏まえて再度整理を行い、会長にご一任の上で決定することとしたい旨について説明

【会長】ご意見がなければ、その形で進めることとしたい。

【委員】（委員一同異議なし）

5. 開会

- ・金田副会長より閉会挨拶